

平成 27 年度 学校関係者評価報告書

福島医療専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会は「平成 26 年度学校自己評価結果」に基づいて学校関係者評価を行いました。その結果を以下の通り報告致します。

1. 開催日時・場所

日時：平成 27 年 9 月 6 日(日) 13 時 00 分～14 時 05 分

場所：福島医療専門学校 本部・柔整科校舎 2 階「基礎医学実習室」

2. 出席委員

《企業等委員》

| | |
|-------|---------------------------|
| 菅野 洋子 | 一般社団法人 福島県歯科衛生士会 監事 |
| 山本 忠臣 | 善用堂やまもと整骨院院長、康友会会長 |
| 三瓶 直之 | 安積野さんぺい整骨院院長 |
| 箱岩 義郎 | ひまわり鍼灸接骨院院長、福島県鍼灸師会財務部副部長 |

《学内出席者》

| | |
|--------|-----------|
| 飯島 正治 | 校長 |
| 木野 達司 | 副校長 |
| 白江 誠 | 教務部長 |
| 齊藤 慎吾 | 教務副部長 |
| 鈴木 英明 | 柔整科学科長 |
| 手塚 清恵 | 鍼灸科学科長 |
| 柴田 佐智子 | 歯科衛生士科学科長 |
| 大橋 健次 | 事務局長 |
| 小池 一幸 | 教務課長 |

3. 委員会の概要

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 委員長の選出・委員の紹介
- (4) 委員会の運営・進め方について
- (5) 平成 26 年度学校自己評価報告
- (6) 質疑応答・意見交換
- (7) その他
- (8) 閉会

4. 教育の目的・目標

《建学の目的》

「福寿高尚の教育」

21 世紀を迎え、生きがいのある「福寿」に満ちた長寿社会の構築を目指し、「医は仁術である」という崇高な精神のもとに「高尚」の教育を推進し、医療社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成することを目的とする。

《教育目標》

- ①深い教養と諸能力を持つ人間を育てる
- ②医道に奉仕する心を持つ人間を育てる
- ③自然を敬い、生命の尊厳を重んじる人間を育てる

《教育方針》

- ①深い教養と諸能力を追及する「創造教育」

グローバルな時代の中で、高い次元から「より深い哲学的教養を養い、文化を創造する能力」を育てる。

- ②倫理観と向き合い、人間愛にあふれた「医術教育」

医道を極めるふさわしい臨床的技術を追求する過程において「思いやりと優しさに裏打ちされた奉仕の心」を育てる。

- ③美しいものに感動し、自然と人間のあり方を探求する「環境教育」

宇宙では、人間をはじめすべてのものは固有の生命を持ち、どれが中心ということはない。「生きとし生けるものは総て生かされている」という自然観を敬う心情を育てる。

《26 年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画》

- ①記憶・思考・感性・応用などの諸能力を発育させる。
- ②医術を究めるための専門的な知識・技能を重視し、医の倫理にふれさせる。
- ③自然と人間のかかわり、科学の発達と生命倫理について理解させる。

5. 項目ごとの評価・課題・意見

※自己評価は「適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1」の4段階で表される。

(1) 教育理念・目標

| 評価項目 | 自己評価 | 課題・改善方策 | 学校関係者評価委員会の意見 |
|--|------|---------|---------------|
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか | 4 | | |
| 医療専門学校としての医療人教育がなされているか | 4 | | |
| 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4 | | |
| 学校の理念・目的・育成人材像・特色などが教職員・学生・保護者等に周知されているか | 3 | | |
| 各学科の教育目標、人材育成像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4 | | |

(2) 学校運営

| 評価項目 | 自己評価 | 課題・改善方策 | 学校関係者評価委員会の意見 |
|---|------|--|--|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 | <p>教職員における方針の展開方法に関して、仕組の徹底が強力に図れなかった。</p> <p>職員の勤務時間帯、勤務状況にあった情報共有化が不十分であった。</p> <p>各職員階層毎に会議体を開催し、事業計画の伝達・確認を徹底しているが、課題解決のために更なるシステム構築を図り改善して行く。</p> | <p>組織力強化や再編は具体的にどのような形で進められているのか。</p> <p>⇒学校運営会議を設けて、学校全体の問題点を協議・検討するシステムへと改善を図っている。</p> |
| 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。事業計画の共通理解がなされているか | 3 | | |
| 運営組織や意思決定機能は、規則や校務分掌等において明確化されているか | 4 | | |
| 校務分掌における役割と職責が明確化され、有効に機能しているか | 4 | | |
| 人事、給与に関する規定等は整備されているか | 4 | | |
| 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 3 | | |
| 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 3 | | |

| | | | |
|---------------------------|---|--|--|
| 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 3 | | |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 4 | | |

(3) 教育活動

| 評価項目 | 自己評価 | 課題・改善方策 | 学校関係者評価委員会の意見 |
|---|------|--|--|
| 教育理念等に沿ったカリキュラムの編成・実施方針等が策定されているか | 4 | <p>教員の指導能力や技能はさらなる向上を目指す。</p> <p>企業・関連施設等や業界団体との連携や協力体制をこれまで以上に整え、地域貢献や情報の共有を図る。</p> <p>授業の質の向上に努め、自らの授業に関して学生からの評価を受け、結果を真摯に受け止めることが必要である。</p> <p>関連分野における先端的な知識と技能等を修得するための研修などを積極的に取り入れ、学生へフィードバックできるようにする。</p> <p>業界団体から講師を招聘し、講演や実技指導の時間を設ける。</p> <p>授業評価を定期的に実施で</p> | <p>教員が熱意を持って、それぞれの学生に合った指導方法、指導環境を整えなければならぬ。</p> <p>できれば秋からやる気をもってほしいが、現状では冬になってからエンジンがかかってくることもある。</p> <p>週に1、2回でも職場見学として治療院の現場を訪問することを取り入れてはどうか。</p> |
| 一定の到達レベルを目標とした教育や学習時間の確保がなされているか | 4 | | |
| 各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 | | |
| 医療人の職業教育という視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 3 | | |
| 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 3 | | |
| 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実技・実習等）がカリキュラムに組み込まれているか。 | 3 | | |
| 授業評価の実施・評価体制はあるか | 3 | | |
| 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 3 | | |
| 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 4 | | |
| 国家資格取得に関する指導体制を体系的に明確に位置づけているか | 3 | | |
| 教育理念、教育目標の達成に向けて、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 | | |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどの取り組みが行われているか | 3 | | |
| 関連分野における先端的な知識と技能 | 3 | | |

| | | | |
|---|---|---------------|--|
| 等を修得するための研修や教員の指導能力育成など資質向上のための取り組みが行われているか | | きるような体制を構築する。 | |
| 教職員の能力開発のための研修等が行われているか | 3 | | |

(4) 学修成果

| 評価項目 | 自己評価 | 課題・改善方策 | 学校関係者評価委員会の意見 |
|---------------------------------------|------|--|--|
| 就職率の向上が図られているか | 4 | 資格習得へのモチベーションが途切れ、そのため学習能力の低下がみられる。 | 模擬試験の成績が伸びない学生がいる。個別や少人数での対策は実際にされているのか。 |
| 国家試験合格率の向上が図られているか | 4 | 学力を理由に退学する学生、経済的な理由により退学する学生を減らすための対策が急務である | ⇒国試対策課で補習を実施している。質問があれば個別対応もしている。 |
| 退学率の低減が図られているか | 3 | グループ学習や個別指導を積極的に取り入れ、退学率を低減する | 一生懸命やっても点数の上がらない学生への対策はどうするか。 |
| 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3 | に対し、個別あるいは少人数での対応を行う。 | ⇒やる気、真剣さの問題にもなってくる。学生個々の国家試験に対するとらえ方も異なり、厳しくすれば良いわけでもない。これらの対策は毎年の課題 |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 3 | 入学前の学力（高等学校での学習状況等）が把握できるとともに、教員が学生と日常的に円滑なコミュニケーションを図り信頼関係を築くとともに学力向上における改善策と経済面における対応改善策を学校と本人、時には保護 | である。 |

| | | | |
|--|--|--------------|--|
| | | 者を交えながら相談する。 | |
|--|--|--------------|--|

(5) 学生支援

| 評価項目 | 自己評価 | 課題・改善方策 | 学校関係者評価委員会の意見 |
|---|------|---|--|
| 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 4 | 業界団体や同窓会からの声を聞く機会が少ない。 業界団体や同窓会との連絡を密にとる必要がある。 | 卒業生でこの業界にいる方から意見を頂戴できる時間を増やしてはどうか。連携強化を取った方が良い。 同窓会として職業教育として実際に開業されている先生が学生に講演する場を設けることも考えたい。検討する。 |
| 学生相談に関する体制は整備されているか | 4 | | |
| 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 4 | | |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 4 | | |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 4 | | |
| 学生の生活環境への支援は行われているか | 4 | | |
| 保護者と適切に連携しているか | 4 | | |
| 卒業生への支援体制はあるか | 3 | | |
| 学生、卒業生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 3 | | |
| 高等学校や地域、業界団体との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか | 3 | | |

(6) 教育環境

| 評価項目 | 自己評価 | 課題・改善方策 | 学校関係者評価委員会の意見 |
|-----------------------------------|------|---------|---------------|
| 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 3 | | |
| 学内外の実習施設、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 | | |
| 防災に対する体制は整備されているか | 4 | | |

(7) 学生の受入れ募集

| 評価項目 | 自己評価 | 課題・改善方策 | 学校関係者評価委員会の意見 |
|-----------------------------|------|--|---------------|
| 学生募集活動は、適正に行われているか | 4 | 今後の改善方策現状の募集活動に加え更に、本学で学ぶ意義、社会的責任も踏まえたうえで、将来的展望を十分に確認・納得させながら募集活動を行っていく方針である | |
| 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 3 | | |
| 学納金は妥当なものとなっているか | 4 | | |

(8) 財務

| 評価項目 | 自己評価 | 課題・改善方策 | 学校関係者評価委員会の意見 |
|--------------------------|------|--|---------------|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか | 3 | 財務基盤をより安定させるためには、ここ数年の入学者数(在校生数)減少に伴い、学科等の新設及び変更も視野に入れ、中長期計画により根本的な見直しが必要不可欠である。 | |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 | | |
| 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 | | |
| 財務情報公開の体制整備はできているか | 3 | | |

(9) 法令等の遵守

| 評価項目 | 自己評価 | 課題・改善方策 | 学校関係者評価委員会の意見 |
|-------------------------------|------|---------|---------------|
| 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 | | |
| 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 | | |
| 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 4 | | |
| 自己評価結果を公開しているか | 4 | | |

(10) 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 自己評価 | 課題・改善方策 | 学校関係者評価委員会の意見 |
|---|------|---|---------------|
| 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 3 | 学生へむけてボランティア活動についてのアナウンスを積極的に行う。学生のボランティア精神を養い、育成する。 授業以外の活動を広く告知し、積極的に参加するように促す 学生が全員参加できるようなボランティア活動やその参加方法を模索する。 | |
| 学生のボランティア活動を推奨、支援しているか | 3 | | |
| 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 4 | | |

6. その他の意見

・次年度以降の委員会の開催スケジュールはどのようになるか。

⇒次年度はもっと早い段階（春先）に学校関係者評価を行う予定とする。

・昔の学生とは、学生を取り巻く環境も変わっている（学校数の増加など）。入りたくて入ってきた学生ばかりではないと思われる。養成施設として資格教育、臨床教育や人間教育を図っていく。

・学生の研修を推奨しているが、実態として難しい（資金面でアルバイトを優先してしまう）。研修率の向上をいかに図るか課題。

・資格教育と職業教育は両立させなければ職業学校は成立しない。学校としては各種のボランティア活動を受けて学生が経験できる機会を作っているが、その先に職業意識を持たせるためには産学共同で学校と関係団体が協力して学生を育てていく必要がある。卒業した先生から学生（後輩）に伝えて頂く機会があつてよいと思う。

・自己評価結果を検証するために、その評価とした根拠を示してほしい。抽象的ではなく、具体的なものを提示してほしい。今後も続けていくために基本となるものを作る必要がある。

・今後の委員会では、具体的に話し合う上で基礎となる資料も提出して頂くようお願いしたい。